

## 三永水源地のいろいろな藤の木

「いろいろな」には、まずフジの種類がある。水源地入り口のパネルには、フジとしてノダフジとアケボノフジ、ヤマフジとしてカピタンフジとシロカピタンフジが植えられているとある。株数は全体で180本、藤棚の長さは335mに及ぶという。

フジの寿命は長いといわれるが、それでも衰えが目立ち、フジの若木を植栽した、確かそんな新聞記事を読んだ。今ではその若木も成長している。

ここ東広島では、フジの季節が5月の連休とぴったり符合することもある（03年など）。

「いろいろな」にはもう1つの趣向がある。三永水源地のフジは、上水道の貯水池をバックにして、人々を楽しませる。

他にもフジがある。水源地から少し下流の黒瀬川沿いである。そこに東広島市の下水処理場がある。その構内に「憩いの場」が設えてあり、小規模ながら、藤棚が見える。人も車もほとんど通らないので、ちょっと失礼して構内に入り、写真を撮った。ただ問題なのはほのかに悪臭が漂う。なお休日でも門は半分開いている。



三永水源地のノダフジが盛り。03年5月6日撮影。



カピタンフジ (同5月1日撮影)



シロカピタンフジ (同5月1日撮影)



汚水処理場のフジ (同5月1日撮影)

